

## [1 3] 延岡市小体連

( 学校数 27 校 児童数 5974 名)

## I 年間事業

	事業名	事業内容	会場
5月 6日 (金)	第1回理事会	○ 会計予算審議 ○ 活動計画及び事業計画審議 ○ 役員選出	北浦小
6月 9日 (木)	第2回理事会	○ 器械運動教室内容審議 ○ 本年度の研究計画について	北浦小
8月 2日 (火)	器械教室運動前日準備	中止	東小
8月 3日 (水)	令和4年度 延岡市器械運動教室	中止	東小
8月 26日 (金)	第3回理事会	○ スポーツフェスタについての審議 ○ 器械運動教室反省 ○ 授業研究会事前研	南小
11月 8日 (火)	第4回理事会	○ 研究授業 6年ネット型 (ソフトミニバレー) ○ 授業研究会	旭小
12月 8日 (木)	スポーツフェスタ 前日準備	○ 会場設営 ○ 役員打合せ	西階陸上 競技場
12月 9日 (金)	令和4年度 延岡市小学校 スポーツフェスタ	○ 陸上、野球、サッカー、タグラグビー、生涯スポーツ、50M走	西階陸上 競技場及び その周辺の 競技場
2月 21日 (火)	第5回理事会	○ 年間事業反省	北浦小

## II 事業部のあゆみ

1 器械運動教室 ※感染症拡大予防対策のため中止。以下、行う予定であったものを記載

- (1) 大会名 令和4年度延岡市器械運動教室
- (2) 期 日 令和4年8月3日 (水)
- (3) 会 場 延岡市立東小学校
- (4) 参加者 延岡市立の小学校に通う3・4年生の希望児童 47名
- (5) 内 容 マット運動（前転・後転） 跳び箱（開脚跳び）
- (6) 実施方法 ○ 47名の児童を12班に分け、少人数で指導を行う。
- (7) 日 程 ○ 開講式 9:00  
○ 実技指導 9:20  
○ 閉講式終了 11:30
- (8) 表 彰 参加児童全員に、修了証を配付する
- (9) 反 省 (成果と課題)

## 2 スポーツフェスタ

- (1) 大会名 令和4年度延岡市小学校スポーツフェスタ
- (2) 期日 令和4年12月 9日 (金)
- (3) 会場 西階陸上競技場及びその周辺の競技場
- (4) 参加者 延岡市立の小学校に通う6年生児童 (一部5年生児童を含む)
- (5) 種目  50M走及び生涯スポーツ (全員)  
 陸上、野球、サッカー、タグラグビー (選択)
- (6) 実施方法  地域の方々を中心に講師を依頼し、様々なスポーツに親しむ。  
 延岡市の小学校27校を集め、1日開催で行う。
- (8) 反省 (成果と課題)
  - 地域の方を中心に指導者として協力していただき、充実したスポーツフェスタであった。
  - 運動量も十分に確保され、児童も様々な競技に触れることができた。
  - 開催2年目ということもあり、スムーズに運営を行うことができた。
  - バスの運行の関係で、会場到着後もしくは会場出発前に待ち時間の長くなる学校があった。

## 3 体力向上の取組 (予定)

- (1) 期日 令和5年1月～2月
- (2) 対象 延岡市内の小学校に通う児童
- (3) 内容 なわとび運動
- (4) 取組内容  動画による様々ななわとび運動の紹介  
 動画による各学校のなわとび運動の様子の共有
- (5) 内容の詳細
  - N Tube (Nobeoka Nawatobi Tube) と称し、様々ななわとび運動の紹介を動画で行ったり、各学校のなわとび運動の様子を動画で共有したりして、楽しく運動を行う機会の確保と意欲の向上を図り、体力の向上を狙う。

動画でのなわとび運動の紹介や活動の様子の共有には、延岡市全職員全児童にアカウントが配付されている Google の Classroom を使用する。

紹介する動画は、よく行われる「8の字跳び」だけでなく、縄の下をくぐりぬけたり、ペアや3人組で跳んだりするなど、運動が苦手な児童も親しみやすいものから難易度の高いものまで紹介することで、全ての児童が運動の楽しさや喜びを味わえるようにしたい。

### III 研究部の歩み

#### 1 本年度研究主題

全ての児童が運動の楽しさや喜びを味わうことのできる体育科学習の在り方の究明

～主体的・対話的で深い学びを視点とした授業改善と延岡市立小学校全体での共同実践を通して～

#### 2 研究の基本的な考え方～全ての児童が運動の楽しさや喜びを味わうことのできる体育科学習とは～

体育科学習では、運動が得意な児童、苦手な児童、体育が好きな児童、嫌いな児童など実態が様々に異なる児童が一緒になって学習を進めていかなければならない。そのような状況の中で全ての児童が運動の楽しさや喜びを実感するためには、運動ができた、競争に勝ったという楽しさや喜びのとらえ方だけでは十分ではない。

高田典衛（1979）は「よい体育科授業の条件」として以下の4つを挙げている。

- 精一杯運動させてくれた授業
- ワザや力を延ばしてくれた授業
- 友達と仲良くさせてくれた授業
- 発見させてくれた授業

以上の4つを参考に考えると、以下のように運動の楽しさや喜びをとらえ直すことができる。

- たくさん体が動かせた！（運動量の確保）
- 自分の力を伸ばすことができた！（技能の高まり）
- 友達と仲良く運動できた！（周囲との肯定的なかかわり）
- 運動のコツを発見できた！（課題解決的な学習）

本研究では、この4つを運動の楽しさや喜びととらえ、運動の得意な児童も苦手な児童もこの4つを味わうことのできる体育科学習の在り方を究明していく。

#### 3 研究の構想（研究の仮説、研究内容）

（宮崎県小学校体育連盟研究主題）

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習  
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

【延岡市小学校体育連盟研究主題】

全ての児童が運動の楽しさや喜びを味わうことのできる体育科学習の在り方の究明

～主体的・対話的で深い学びを視点とした授業改善と延岡市立小学校全体での共同実践を通して～

【研究仮説】

主体的・対話的で深い学びを視点として、ICT（一人一台タブレット）の活用や評価の工夫を中心とした授業改善を行うとともに、延岡市立小学校全体での共同実践を行えば、全ての児童が運動の楽しさや喜びを味わうことのできる体育科学習の在り方を究明できるであろう。

【研究内容①】

- 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善
  - ・ ICT（一人一台タブレット）の活用
  - ・ 評価の工夫

【研究内容②】

- 延岡市立小学校全体での共同実践
  - ・ なわとび運動

#### 4 研究の実際

##### （1）主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善

###### ① ICT（一人一台タブレット）の活用

令和4年11月8日（火）に授業実践を行い、研究仮説の検証を行った。

領域	単元名	学年	授業者		
ゲーム（ネット型）	ソフトミニバレー	6学年	旭小学校	菊池	真央 教諭

研究授業を行った学級の児童36名は、明るく素直で朝の時間や昼休みに外遊びを好む児童が多くいる。

体育の学習においても積極的であり、体を動かすことが得意な児童は苦手な児童に対して、助言をする姿がある。また、運動を苦手としている児童は、諦めずに練習に取組み、技を習得しようとする姿が見られる。

一方で、ボール運動が得意な児童と不得意な児童の差が大きい現状がある。さらに、自分の思いや考えを友達に伝えることも得意不得意の差が大きい。

そこで、本単元の指導に当たっては、毎時間のチーム内での練習や簡易化されたゲームを通して、ボール操作やボールを持たない時の動きを身に付けられるようにした。また、チームで話し合う場面を多く設けることで、自分の言葉で自己やチームの良かった点や課題を伝え合い、その解決のためにアドバイスをし合いながら、仲間と助け合って競い合う楽しさや喜びを味わえるようにした。さらに、ボール運動が苦手な児童が「できた」という成功体験を多く積めるようにスマイルステップで学習を進めていった。

単元の前半では、ボール操作や連携プレーを楽しみながら身に付けさせるために、チーム同士でボールをつなないだり、相手コートにボールを打ち返したりするなどのボール操作や、ボールの方向に体を向け、その方向に素早く移動するなどのボールを持たない時の動きの習得を、チーム内での練習や簡易ゲームを通して図った。また、チーム内での練習やラリーを長く続けさせることを目的としたゲームを行い、ボールをつなぐことができるようになれば、ボールを床に落とさなかった回数を競い合うなど、意欲が継続するような工夫も行ったりした。加えて、ゲームを通して、レシーブやトスの際の腕や膝などの体の使い方が上手なチーム、声のかけ方が上手なチームを全体の場で紹介することで、自己肯定感を高めるとともに、全体の技能も高められるようにした。

単元後半では、単元前半で身に付けた動きを基に、ルールを工夫しながら、公式ルールに近いソフトバレーを行った。最終時間は、ワンバウンドやキャッチを無くしたゲームを基本とした試合の展開をねらい、ゲームを通して、ワンバウンドやキャッチの制限を少しづつかけ、ノーバウンドでのラリーに慣れさせた。また、ゲームに入る前に各チームで話し合う時間を設け、作戦やポジションを確認させた。さらに、試合後には、振り返りを行ったが、その際に視覚的な情報があると話合いが活発になると考え、ICT機器を用いて、試合中のチームメイトの体の使い方を動画で撮影させる。その動画を振り返りながらチームメイトの体の使い方において、良かった点や課題について話し合い、動きが分からぬ友達への教え合いをすることでチームの連携を深めるとともに技能の習得を目指していった。



## ② 評価の工夫

令和4年12月16日（金）に授業実践を行い、研究仮説の検証を行った。

領域	単元名	学年	授業者		
ゲーム（ゴール型）	タグラグビー	3学年	南小学校	永野 佳太	教諭

本単元は、学習指導要領（体育編）に思考力・判断力・表現力等の目標として「規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりしているとともに、考えたことを友達に伝えることができる。」と設定されている。しかし、児童の実態として「考えたことを友達に伝えることができる」という点に課題が見られたため、「自分の考えを友達に伝えること」について重点的に指導を行い、本単元では「ゲームの型に応じた作戦を選ぶ」ことは取り扱わないこととし、次の単元及び次の学年で「作戦を選ぶ」ことを取り扱うこととした。このように、評価の観点を焦点化することで、評価の視点が明確になり、指導もより効果的に行うことができた。

（2）延岡市立小学校全体での共同実践 … 2ページ目の「体力向上の取組」に記載

## （3）成果と課題

- ICTの活用と評価の工夫を中心に、主体的・対話的で深い学びを視点とした授業改善を行ったことで、ネット型やゴール型の運動に親しむ児童の姿が見られた。
- 延岡市立小学校全体での共同実践に関して、見通しをもってさらに早い時期から行うことで、より効果が得られたと思われる。